

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
		○		

事務事業No 470 事業名 商業拠点整備事業（けやき大通り第一種市街地再開発事業、空き店舗対策事業、地場特産品店整備事業等）

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		商工費	
	項		商工費	
	目		まちづくり推進費	
	大事業		まちづくり推進事業	
	事項		商業拠点整備事業	
「3つのキーワード」との関連性				
いのちを守る	人と文化を育てる	ふるさと力を高める	該当せず	
		○		

分野別目標	3	市民と地域がつくる元気なまち
政策	2	中心市街地の活性化
施策	1	中心市街地の活性化
取組	1	賑わい拠点の創出

事業種別	継続	主な事務事業	○
事業期間	H19	～	H25
事業実施の根拠法令			
関連個別計画	和歌山市中心市街地活性化基本計画（H23年度終了）		
担当課・担当課長（Tel）	商工まちおこし課	野口滋	(435-1233)
関連課	都市整備課		

1 事業概要及び実施内容

事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）		事業内容					
事業概要	中心市街地にある空き店舗での新規出店者に対し家賃補助を行い新規出店を促すことで、中心市街地に賑わいをもたらす商業の活性化を図る。		中心市街地内の商業地に新規出店者に対する支援を行う（23年度コミュニティスペースとして出店した店の3年間補助分の最終年である。平成25年度まで）				
	実施内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
空き店舗対策事業（7件の新規出店に対し、補助を開始した。）		空き店舗対策事業（10件の新規出店に対し、補助を開始した。）	空き店舗対策事業（14件の新規出店に対し、補助を開始した。） 中心市街地の商店街のイベント補助	空き店舗対策事業（前年の新規出店に対する残補助）	空き店舗対策事業（平成23年度に出店したコミュニティスペース3年間補助の最終年分の補助）		

2 事業コスト

	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算
事業費	7,710	5,950	8,640	7,315	14,345	9,679	5,560	3,730	585	
伸び率（%）	-	-	12.1%		66.0%		-61.2%		-89.5%	
人件費	常勤職員	5,037	5,576	5,037	5,464	5,037	5,869	4,080	2,045	2,045
	非常勤職員									
	小計	5,037	5,576	5,037	5,464	5,037	9,679	4,080	2,045	2,045
国庫支出金	1,600	1,694	2,700	2,235	2,865	2,518				
県支出金	800	465	200		200					
市債										
その他										
一般財源（税等）	6,510	3,791	5,740	5,080	11,480	7,161	5,560	3,730	585	
所要人数	常勤職員	0.66		0.66	0.72	0.72	0.78	0.55	0.28	0.28
	非常勤職員									
主な予算内訳										

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況			平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
活動指標	中心市街地活性化基本計画事業の進捗率	年度目標値			60	64	64		
		実績値			51	58	59		
	単位	%	全体目標値		全体目標達成度	85.0%	90.6%	92.2%	
	年度別達成度								
成果指標	新規店舗開設補助件数	年度目標値			5	5	5	5	5
		実績値			7	10	13	4	
	単位	件	全体目標値	5件/年間	全体目標達成度	140.0%	200.0%	260.0%	80.0%
	年度別達成度								
中心商業地通行量	年度目標値					26,500			
	実績値			19,613	17,463	17,107			
単位	人	全体目標値	26500	全体目標達成度	65.9%	年度別達成度		64.6%	

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している		横ばい	○ 減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい		一部見直しが必要	○ 見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき		他の主体との協働も可能	○ 市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	○ 達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか		できない		制約はあるが可能性はある	○ できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正		負担は求められない	○ 見直しが必要

5 今後の方向性（担当課評価）

事業内容の方向性	充実				
	現状維持				
	縮小				
	廃止	○			
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	和歌山市中心市街地活性化基本計画も終わり、空き店舗に対する助成は、商業活性化支援事業補助金に移行しています。
「見直し」「改善」案 ※上記、「今後の方向性」において、「事業内容」、「コスト投入」の方向性が共に「現状維持」以外の場合は記載	和歌山市中心市街地活性化基本計画も終わり、空き店舗に対する助成は、商業活性化支援事業補助金に移行しています。